

予防接種ネットワークを活用し 医療・介護の地域包括支援体制を構築します

昨年の4月から運用を開始した「予防接種ネットワーク」。今年、利用者により良い医療を提供するため、このネットワークシステムを活用し、医療・福祉分野における情報共有を強化した新たな地域包括支援体制の構築をめざします。



健康課（永上保健センター内） ☎ 82・4567

予防接種ネットワークとは

予防接種の接種時期や回数などの情報を市・医療機関・利用者間で共有し、受け忘れや二重接種を防ぐ目的で昨年4月に導入したネットワークシステムです。0歳、16歳、65歳以上の人が対象で、システムの利用にはすでに配布済みの「予防接種カード」が必要です。システムの導入により予防接種の接種率は3歳未満児の水痘で7%アップしました。

医療・福祉の情報共有

今年度、この「予防接種ネットワーク」を活用し、主に処方・調剤情報を医療（医科・歯科）・薬局・介護事業所内で共有する「医療介

護情報連携システム」の構築に取り組めます。

このシステムで処方・調剤情報を共有することで、参加医療機関・薬局・介護事業者は、利用者本人の了解のもと、調剤情報を確認することができ、よりかかりつけ機能を強化することができます。

「医療介護情報連携システム」でできること

- ① 医療機関・薬局・介護事業所で、患者・入所者の投薬状況を確認し、処方内容・飲み合わせの検討、重複投薬の防止
- ② 薬局で医師や薬剤師の処方の連携、複数の医療機関から出される薬の飲み合わせをチェック
- ③ 医療機関・薬局・介護事業所が

情報共有を図り、患者の急な体調変化に速やかに対応できる体制の構築

■システムを使うには

「予防接種カード」または、予防接種カードの配布対象でない年齢の人に交付する「健康カード（仮称）」が必要です。

ただし、これらのカードがお薬手帳の代わりになるわけではありません。手持ちのお薬手帳は従来どおり使えますので、これからも利用ください。カードは個人と医療・介護関係者間で薬の情報を共有するために使います。



来年度から運用開始

「医療介護情報連携システム」は平成31年度から運用開始予定です。運用には、医療・薬局・介護事業者などの情報共有者を中心にNPO法人を設立し、地域や社会の課題について、柔軟かつ機敏に対応する体制を構築します。

行政だけでなく、NPO・企業・市民など様々な主体が公共システムを担う「新しい公」の試みです。市は今後NPO法人と連携し、市民と医療従事者、介護従事者に対して、医療、介護情報の共有を行います。そして、医療資質の向上をめざし、医療・介護の地域包括体制の構築に努めます。

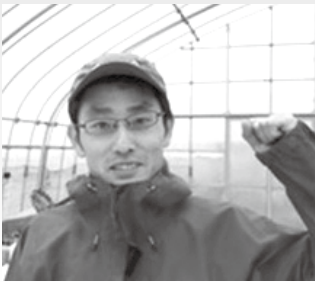


これまで医療介護連携を協議してきた医療機関ネットワーク運営協議会の10者



農業を学び、新たな担い手となる 高野 亨さん vol.19

経歴：伊丹市出身。大学卒業後、港の運用を担う民間会社に就職。半公半農の地域おこし協力隊1期生。今年、二人目の子が誕生。任期：28年11月～



られ、体調を崩すことなく好きなことに取り組んでいることに感謝しています。

地域に根ざした農業をめざし、いろいろな方に農業で恩返ししていくためにも一層がんばっていきます。



地域の祭りで劇に出演する高野隊員（写真中央）

こんにちは。平成28年11月に伊丹から丹波市市島町鴨庄地区に引っ越し、半公半農の地域おこし協力隊として農業を勉強中の高野亨です。最近、待望の第2子が生まれ、家族が4人になりました。

最大任期3年のうち前半が過ぎ、現在は鴨庄地区の農家さんとその従業員の方に苗作りから収穫まで野菜作りを中心に教えて頂いています。同じ地区に住んでいるという事で、農業だけにとどまらず、村の歴史や人生の先輩としての助言など自分に足りない点を幅広く教わっています。

暑さが段々と厳しくなり、外にいただけで辛くなる時期になりましたが、先輩農家・地域の人・友達・家族などいろいろな方に支え

市長コラム 丹波語り

過去と現在の対話



「歴史とは、過去と現在との絶えざる対話である」イギリスの歴史学者E. H. カール（1892-1982）の言葉です。

人類は有史以来数千年の歴史の中で、試行錯誤を重ねながらも着実に進化を遂げてきました。世界史、日本史を学ぶ中で、学生時代から「歴史は何のために学ぶのか？出来事・年号等の丸暗記が、何の役に立つのか？」と思ったことがしばしばあります。しかし、歴史には法則性のようなものがあり、結果論として「ああすればこうなる」「あのとき手を打っておけば、あんな悲惨な局面は回避できたのでは？」と思える場面があります。過去の史実を前提に「賢者は歴史に学ぶ」ことを心に銘記したいと思います。

